

事務事業マネジメントシート(平成30年度実績と平成31年度計画)

平成31年 4月23日更新

事務事業名	たばこ税課税事務		<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input checked="" type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	1 自治の健康	所属部	市民生活部	課長名 米澤 伸仁
	施策	3 財政の健全化	所属課	税務課	担当者名 山口 裕里香
	施策の柱	14 自主財源の確保	所属班	市税班	(内線) 1126
予算科目	会計一般	款 2 項 2 目 2	事業連番 11126	根拠法令 地方税法、合志市税条例	
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 30年度で終了 <input type="checkbox"/> 30年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)	

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市たばこ税を適正に課税する事務。昭和25年に地方税法が制定され課税が始まった。</li> <li>・納税は、納税義務者(たばこ製造者・輸入業者・卸売販売業者)が自ら税額を計算し、申告額を納税する「申告納付」で行われている。※たばこの小売価格の中に市たばこ税が含まれており、実際にはたばこを買う人が負担している。</li> <li>・高齢化の進展、健康意識の高まり、喫煙規制の強化、増税・値上げ等により喫煙者率が減少傾向にある。</li> <li>・旧3級品の税率が平成28年度から平成31年度にかけて段階的に引き上げられ、それに伴い手持品課税が開始された。</li> <li>・加熱式たばこの課税強化(平成30年度～令和4年度)及び紙巻たばこの税率の引き上げ(平成30年度～令和3年度)が実行されている。</li> </ul>
【業務の流れ】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月 ①納税義務者からの市たばこ税申告書の收受・審査(内容確認)・納付額の調定 ②県から送られてくる販売本数明細書との突合</li> <li>・随時 手持品課税納税申告書(税務署が收受し、市へ回付)の審査(内容確認)・納付額の調定</li> </ul>
【主な予算費目】	事業費なし(人件費のみ)
【意見や要望】	特になし

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 30年度実績(30年度に行った主な活動) (DO)	市たばこ税申告書の收受・審査・調定、手持ち品課税納税申告書の審査・調定	31年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 前年度と同じ
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 件	予算の主な増減の理由 → ア: 申告件数 イ: 予算なし
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	市たばこ税納税義務者	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位) 人 → ア: 納税義務者数 イ:
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	市たばこ税の適正な賦課及び調定を行う(適正な申告納付)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位) 件 → ア: 申告書受付数 イ:
*③成果指標設定の理由と31年度目標値設定の根拠 申告者は、たばこ製造者・輸入業者・卸売販売業者であるため、前年度実績を目標値として設定した。		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	28年度実績(決算)	29年度実績(決算)	30年度目標(当初予算)	30年度実績(決算)	31年度目標(当初予算)	2年度予定	3年度見込	4年度見込
① 活動指標	ア 件		30	29	30	34	30	30	30	30
② 対象指標	ア 人		5	4	4	5	4	4	4	4
③ 成果指標	ア 件		30	29	30	34	30	30	30	30
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円							
	(A) 事業費計	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
人件費	正規職員従事人数	人	2	3	2	5	2	2	2	2
	延べ業務時間	時間	45	55	70	117	70	70	70	70
	(B) 人件費計	千円	0	217	278	461	278	278	278	278
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	217	278	461	278	278	278	278

事務事業名	たばこ税課税事務	所属部	市民生活部	所属課	税務課
-------	----------	-----	-------	-----	-----

## 2 評価の部 (CHECK)

\*原則は30年度の事後評価、ただし複数年度事業は30年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①30年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②31年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 納税義務者からの申告であるため、変動は無いと思われる。
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 納税義務者による「申告納付」のため、成果の向上余地がない
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 地方税法及び市税条例等の規定に基づく事務であり、類似事業はなく他に手段がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 事務費を計上していない。(該当しない)
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 市たばこ税は申告納付であるため、最小限の人員で事務を行っており、業務時間の削減余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 地方税法及び市税条例等の規定に基づく事務であり、受益機会・費用負担は公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 地方税法の規定に基づく市の固有業務である。

## 3 評価結果の総括 (CHECK)

今後は、喫煙人口の減少に伴う市たばこ税の減収が予想される。予算編成に影響が生じることも考えられる。

## 4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策</p>																						